



## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園のESDへの取り組み

横浜シュタイナー学園のESDの取り組みは教育活動全般に渡りますので、ここでは特徴的な活動を取りあげて報告いたします。

#### ■ 自国文化理解に関する活動

横浜シュタイナー学園では、1年生の文字の導入から始めて、わたしたちの固有の文化が成立してきたプロセスを体験的に学んでいる。さらに、3年生では稲作や家づくり体験を中心に生活の営みを支える文化の学びがあり、4年生の郷土学、5年生から始まる日本史へとつながってゆく。このような自国文化理解につながるひとつながりの学びをかたちづくる独自のカリキュラムにより、ESD的な自国文化理解を自然に実現している。以下はその具体例の一部である。

- 4年生の郷土学で、都筑区の貝塚見学、堂ヶ坂の室町時代の切通し見学。
- 5年生は、日本史のエポック「縄文時代」の学びで、粘土に砂を混ぜ込み、縄目をつけ、本格的な縄文土器をつくりあげた。乾燥させた土器は、野焼きで焼き上げた。
- 6年生は日本史の学びの一環として、毎年、京都・奈良旅行を行っている。昨年もそうだったが、訪問した歴史文化施設の担当者から「生徒の関心のもち方が深い」という言葉をいただいた。
- 6年生の英語の授業で、日本の古典落語「時そば」を取りあげた。落語に造詣の深い保護者と9年生生徒のふたりに日本語の「時そば」を披露してもらい、その後、落語の形式や所作を学んだ。さらに、簡単な英語バージョンの台本をもとに、二人一組の劇形式にして全員が発表し、参観した保護者や教員たちを爆笑の渦に巻き込んだ。
- 7年生（中1）の歴史では、鎌倉時代の学びとして鎌倉へ見学に行った。また、室町文化の体験として狂言や能の謡にとりくんだ。
- 9年生（中3）は、にいはる里山交流センターの職員による指導の下、里山の農家で編まれていた竹籠編み細工に取り組んだ。また、手仕事専科の時間には、本格的な和裁による浴衣、甚平を手づくりし、全校の学習発表会には実際に身につけて発表した。

#### ■ 国際理解教育に関する活動

横浜シュタイナー学園では、世界史の学びを通して世界地理と多様な文化の基礎を理解し、その土台の上に高学年では近・現代史にも触れていく。また、英語と中国語の2か国語を1年生から継続的に学び、言語文化を通して国際感覚を育てている。1年生から積み上げることにより、高学年ではコミュニケーション能力もかなりついてくるため、ここ数年、海外との交流も積極的に行うようになった。その活動の一部を以下に列挙する。

## 1. 海外の学校との文通（英語科）

- 昨年の 6 年生に続き、今年度の 6 年生も韓国の 푸른숲학교(Prunsup Waldorf School / 緑の森の学校) および中国の成都华德福学校 (Chengdu Waldorf School) と英語で文通を始めた。韓国からは返事がきて 2 度目の手紙をしたためている。英語の時間以外でも、6 年生は韓国の国のなりたち・文化について、学園の体育教師でもある在日 3 世の韓朱仙 (ハン・チュソン) 先生から話を聞く機会をもった。自分たちの名前や、好きな韓国料理をハンゲルでどう書くか教えてもらった。
- 9 年生は、昨年に引き続き、オーストラリアのオラーナ・ウォルドルフ・スクールと文通をしている。同校でも外国語として日本語を学んでおり、文通は日本語と英語の両方で行った。来年度 4 月に、彼らが修学旅行で来日することが決まり、下の学年 (現 8 年生) が交流を引き継いでいく。

## 2. ゲストティーチャーによる授業

英語のゲストティーチャーとして、海外および日本在住の外国人の方をお招きし、英語で話を聞き、ワークショップを行った。

- 6 月 19 日 ジリアン・ショーさん (元玉川大学講師)  
来日してから長く日本に住み続けてきたイギリス人のジリアンさんが、どのように日本語と日本の習慣を身につけていったのか、面白おかしく話してもらい、たいへん楽しい時間だった。生徒たちは、異文化を受け入れ、外国語を身につける姿勢を学んだ。(8 年生、9 年生)
- 10 月 15 日 デイヴィッド・アンダーソンさん  
ニューヨークで劇団を主宰し、自身俳優でもあり演劇を教える教員でもあるデイヴィッド・アンダーソンさんに、狂言「附子」をもとにした英語劇「A Pot of Poison」の演技指導・演出アドバイスをいただいた。静と動、真面目さとユーモラスさなど、役になりきることで対極の要素を体験した。(5 年生)
- 10 月 15 日 デイヴィッド・アンダーソンさん  
演劇ワークショップを行った。身体を動かしながら、一人ひとりが英単語を表したり、グループでひとつテーマ (例えば春・夏・秋・冬) を表現したりする活動をした。英語という言葉をも、日本語を介さず直に身体で表現する (例えば flower という音の響きを味わいながら、身体全体を使って flower を表現する) 貴重な体験ができた。(7 年生)
- 10 月 15 日 デイヴィッド・アンダーソンさん  
クラスで「ヴェニスの商人」の演劇に取り組んでいた 8 年生は、このシェークスピア劇をどのように演じたらよいのかというヒントを、デイヴィッド・アンダーソンさんとのワークショップを通じて得ることができた。それは、それぞれの人物になりきって行う動作であったり、声の響きだったりするもので、言語を超えて通じ合うものを生徒たちは感じたようだった。
- 10 月 20 日 ジリアン・ショーさん (2 回目)  
学生時代に演劇を学んだジリアンさんに再び来ていただき、英語劇 “The Wizard of Oz” (オズの魔法つかい) の演技指導と発音指導をしていただいた

た。ネイティブ・スピーカーにもわかる台詞を、と生徒たちは張り切って演じ、ジリアンさんから激励の言葉をいただいた。

- 2月20日 マイケル・リッチさん（横浜桐蔭大学講師）  
イギリス人ミックさん（マイケルさんの通称）をお迎えし、身体を動かしながらのゲームから始まって、「イギリス」のイメージ、そしてミックさんが日本に来て困ったことは何かを生徒たちに考えさせ、英語での質疑応答を行った。普段当り前に感じていることが、言葉が分からないとどのように感じるのか、ということを生徒たちは実感できたと思う。例えば、自動販売機で飲み物を選ぶときに、書いてある文字が読めないとうなものか。また、お風呂に入るときのマナーの違いや、混み合った電車の体験が外国から来た人にとってどのような体験なのかなど、異文化について生徒たちに身近で具体的な例をあげながら、分かりやすく体験できた授業だった。
- 10月11日 ジョン・ビリングさん（国際的ライアー奏者）  
イギリスのライアー奏者によるコンサートを3～9年生が鑑賞した。アイルランドの曲、クラシックの演奏を聴き、また日本のわらべ歌や中国の曲をジョンさんのライアーと子どもたちの歌で共演する場面もあり、和やかなひとときとなった。

### 3. 中国語による演劇上演

- 飯田橋の日中学院の朗読大会にて、4年生が中国語の時間に学んだ「三字経」を発表した。大学生や社会人ばかりの発表者のなかでの4年生たちの朗々とした発表に、日中学院の先生方から称賛の言葉をいただいた。
- プロの京劇俳優にアドバイスをいただきながら、孫悟空の中国語劇上演を5年生が行った。磨き込まれたプロの動きに、子どもたちは大いに触発された。

### 4. その他

- 北欧神話や古事記の学びなど、神話世界の学びを通して、さまざまな文化の根底に流れる原型的イメージを体験している。（4年生）
- キング牧師のスピーチを英語の授業でとりあげ、背景を学びながらスピーチした。（9年生）
- DEAR 教材による「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ。（9年生）

#### ■ 地域素材の活用

地域素材の活用としては、学園に隣接して広がる横浜北部随一の広大な里山（新治市民の森）の活用と、その里山を管理するNPOにいはる里山交流センターとの交流事業が継続的な取り組みとなっている。

- 谷戸田での米づくり  
地域のたんぼの会の協力を得て、谷戸田を一区画お借りし、田植えから収穫までを一貫して体験している。泥まみれで代掻きから田づくりを体験し、収穫した稲の脱穀も体験。収穫した米は、にいはる里山交流センターの協力を

得て、里山の古民家のかまどで炊いて食した。稲わらは、家づくりの授業で建てた家の屋根を葺くためにも用いた。稲作の指導は、教員が交流センターの谷戸田を守る会に参加して学ばせていただき、子どもたちは同会の会長さんから谷戸田の米づくりについてのお話をうかがった。(3年生)

- 植物学の生きた学習材料として  
三保市民の森、新治市民の森は、日本有数のシダ類の宝庫だと言われている。5年生の植物学では、森のなかで羊歯や菌類、広葉樹林、針葉樹林の観察を行い、学びに活用している。
- 川の源流探索  
地理の授業では、里山に流れる梅田川の源流（三保市民の森のなかに源泉が湧きだしている）を訪ね、「つながり」の面白さを体験している。(4年生)
- 里山の産物を利用した工芸体験  
9年生の竹籠編みの体験（自国文化理解の項参照）

## ■その他の教育活動

- 3年生の生活の学び  
学園では、3年生の時期に体を使って生活に関わる体験に集中的に取り組むカリキュラムが組まれている。
  - a) 家づくり  
クラスの子どもたち全員が入れるほどの家を実際に建てた。皆で地鎮祭の儀式を行い、竹を素材に竪穴式住居スタイルの家を建てた。屋根の一部は、稲作で収穫した稲藁を使って葺いた。(家のスタイルは毎年変わる)
  - b) 職人の仕事の学び  
家づくりの学びの一環で、釘を使わない木組みの家の建築現場を見学。クラスメイトの新築中の家で、子ども部屋の壁を塗る左官体験もさせていただいた。  
地域のNPOが運営する天然酵母パン工房「ぶかぶか」でのパン焼き体験。  
皮革職人をされている保護者の職場を見学。
  - c) 米づくり、畑づくり  
新治市民の森の谷戸にある田んぼで、無農薬の稲作を代掻きから収穫まですべてを体験した。  
徒歩圏にある校舎の大家さんの畑で、里芋などを育て、収穫した。
- 物理の電気の学びのなかで、電気を作る方法と利用先について学んだ後、さらに環境にやさしい発電・利用について話し合った。(7年生)
- 2014年4月 ベルトルト・ブレヒトの戯曲「ガリレオの生涯」上演(9年生)  
学園のホールを小劇場に仕立て、ブレヒトの戯曲上演に取り組んだ。  
大道具、小道具、衣装のデザインと製作、音楽も生徒みずから作曲演奏した。  
各回70名の観客の前で、全4回の公演を演じきった。「人間にとって科学とは？」と問う主人公の最後の言葉は、震災後の同時代を生きる観客の心を打った。
- 2015年2月 シェークスピア「ヴェニスの商人」を上演(8年生)  
定員180名の小ホールをお借りして、本格的なシェークスピア劇を上演した。  
生徒たちは舞台となった16世紀のヴェニスに思いを馳せ、当時の服装や音

楽について調べ、衣装や靴を手づくりし、選曲をした。また、高利貸しシャイロックを通して、なぜユダヤ人は差別を受けていたのか、お金を貸すことで金利を得ることがなぜ悪いことと考えられていたのかについて考えた。このように演劇に取り組むことを通じて、舞台づくりの本来の体験的学び以外にも、国際的な文化、社会問題の理解を深めることができた。

- 卒業プロジェクト（9年生）

9年生（中3）の卒業プロジェクトでは、約1年をかけて、自由課題として以下のテーマに取り組み、保護者やゲスト約140名の聴衆の前で堂々と発表した。発表後には質疑応答がなされ、質問者の問いにきびきびと答えていた。

- a) 「宮沢賢治の心象」（男子）
- b) 「日本書の歴史」（女子）
- c) 「歌舞伎」（女子）
- d) 「パレスチナ難民」（女子）
- e) 「民主主義とは」（男子）
- f) 「帯の歴史」（女子）
- g) 「日本国憲法が守っているものとは？」（男子）
- h) 「落語の魅力 —自分と落語の登場人物—」（男子）

### ■近隣の里山とのつながり

この1年、地域の豊かな資源である里山で活動する様々な団体や個人とのつながりを深め、学園版Rice Projectである「お米から始まるホリスティックラーニング」の実績を着実に重ねてきた。

- 2014年3月22日（昨年の報告書に収録できなかったので記載します）、里山保全の学びを開催。にいほる里山交流センターを会場に、同センターの吉武美保子さんから里山の魅力と課題についてお話しいただいた（教員保護者対象）。大都市にぽつりと残った都市型の里山の特殊性（オーバーユース問題）を学び、その後は子どもたちも合流し、実際に山中を歩きながら、神奈川県で箱根、丹沢に次いで生物多様性に富むと言われる新治市民の森を貴重な地域素材として大切に活用していくための研修を行った。研修の内容は記録して学内共有する方向で作業を進めている。今後は、この学びを授業にも採り入れつつ、同NPOとの共同の可能性を広げていきたいと考えている。
- 2014年11月22日、にいほる里山交流センター・スタッフであり、田んぼクラブの元代表でもある遠田文恵さんを講師に、講座「お米から始まるホリスティックラーニング」を開催した。講座終了後は、学園がお借りしている谷戸の田んぼを訪問し、現場を見ながら質疑応答の時間をもつていただいた。
- その他、「地域素材の活用」、「3年生の生活の学び」の項を参照のこと。

### ■教職員保護者研修および交流活動

- 2014年8月、ユネスコESD優良事例に応募し、優良事例集に収録され、また文部科学省より認定証をいただいた。テーマは「化学・農業実習を通して地

- 球環境を学ぶ」。2014年11月24日に文部科学省で開催された全国フリースクール等フォーラムのキースピーチのなかでも、このことが紹介された。
- 2014年8月、ユネスコESD世界大会の岡山宣言・世界に届けたいメッセージに「自己変容」をテーマにしたメッセージを応募。宣言採択の報告をまとめたACCUの出版物に収録される予定との連絡をいただいている。
  - 2014年11月6日付の毎日小学生新聞で、世界大会の開催にあわせて組まれたESD特集の一環として当学園の取材記事が掲載された（別紙資料添付）。
  - 2014年11月6～9日、教員と保護者各1名がユネスコESD世界大会（高校生フォーラム参観）および全国大会参加。
  - 2014年11月21日、横浜市立永田台小学校で開催された第46回全国小中学校環境教育研究大会に参加。活動紹介のパネル展示を行った。
  - 2014年12月6日、玉川大学で開催された玉川大学ユネスコスクール研修会「ESDと教師教育－持続可能性を志向する授業づくりの新たな展望」に参加（教員1名、保護者1名）。
  - 2015年1月、第6回「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」に申請。申請プロジェクト名は『「個」の育成に基づくESDの深化プロジェクト』。個の発達－社会と自己－地球規模の自然現象と人間という視点から当学園の取り組みを整理し、その実践に必要な費用についての助成を申請した。
  - 2015年1月10日、神奈川県立有馬高校で開催された2014年度神奈川県ユネスコ・スクールセミナーに参加（教員1名）。谷戸田での米づくりなどの実践報告をした。
  - 2012年にASPUnivNet校・大阪府立大学の吉田敦彦さんをお招きし、シュタイナー教育とESDの関係性やユネスコスクール加盟の意義について語っていただいた講演録「未来をつくるシュタイナー教育」をまとめ、2015年1月に学内向けに配布した。
  - 2015年よりASPUnivNetに加盟した東海大学教養学部より声がかかり、当学園のESDチーム・メンバーがアドバイザーとして同校の活動に関わる予定。
  - アジア地域のシュタイナー教育実践者が2年ごとに各国を巡回して開催している大会「第6回アジアヴァルドルフ教員大会」（2015年4月15日～5月1日、学校法人シュタイナー学園にて開催予定）の受け入れ国として、他校と協力して開催準備を教員と保護者が手弁当で進めている。この大会には400名以上の教員と40名もの講師が参加し、基調講演と36の専門分科会を中心にした教育的研修とともに、アジア地域の文化交流や日中韓の三国対話を行う予定。日中韓対話は、2013年の韓国大会で行われた日韓対話の成果を引き継いで行われる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）